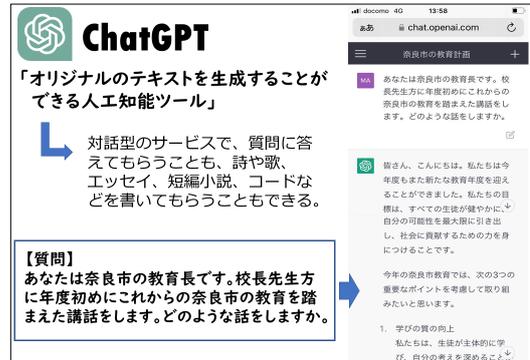


## 1. 「Chat GPT」について

今話題の対話型AI「Chat GPT（チャットジーピーティ）」に、「奈良市の教育を踏まえた講話」について質問し、AIが回答した文章です。

この文章は数秒で作成され、不自然さもそれほどなく、どこの地域で話しても通用する内容として整っています。今後、AIを利用する側として、更には的確な質問ができるようになれば、奈良市の特色ある教育や成果・課題も取り込んだ回答が得られる可能性は高まると思います。

昨年11月に世界中に一般公開された技術で、本当にAIの進化に驚かされます。一方で、報道にもあるように、学習への影響を懸念する声も高まっています。みなさんは、対話型AIの活用についてどのように考えられますか。



## 2. VUCAの時代において

前年度（11月）の校長会でも触れましたが、予測困難な「VUCA（変動性）（不確実性）（複雑性）（曖昧性）」と呼ばれる時代に生きる子どもたちに、どのような力が必要になるのでしょうか。

当時 OECD 教育局長のアンドレアス・シュライヒャー氏が、2015年の進路指導・キャリア教育の専門誌に「未来に向けて若者たちに必要な力とは」について特別寄稿されています。



「今の日本の社会においては、何を知っているかだけでは評価も報酬も得られない。現在の教育は、創造力、批判的思考、問題解決、意思決定を含めた思考方法、コミュニケーションや協同作業を含む仕事の仕方、新技術の可能性を意識し活かせる能力など仕事をする上で必要な力、更には他者と共に生活し仕事をするのに役立つ社会的な情動スキルをより重視する必要がある。」  
(引用：Career Guidance 2015 MAY VOL.407)

この考えは、平成28年12月の中教審答申「2030年の社会と子供たちの未来」に記述されています。今後も知識の習得は、新たな知を創造するための「原材料」として必要です。また、知識をこれまで出会ったことのない状況で活用・応用できる力や、物事に対処したり学んだりするために必要な手順や方策について知ることも重要です。

学校長においては、子どもや地域の実態に応じた、自立的で、個別最適で多様な学びの機会が保障される教育環境を先頭に立ちつくってください。

### 3. 「学びの景色」について

従来の教育は、一律・一斉・大量生産型とよく言われています。「令和の日本型学校教育」の姿では、「一人ひとりが学習ログの分析によって自己認識を深める」「自立的に自分に適したデジタル教材や指導者や学習場所を組み合わせる」「日本や世界中からネットを利用するなど、教室を飛び出して知識を集め、対話する」そうすることで、社会の課題と学校が自然に接続され、小中高生でも社会の課題の当事者として「探究」の入り口に立てる学びが実現できる教育です。

GIGA スクール構想のもと、ICT 環境が一気に整備され、教育 DX（デジタル・トランスフォーメーション）を進めることが飛躍的に可能となりました。

教育 DX は、学校の ICT 環境整備のことではなく、ICT 環境を土台にした、「子どもたちの学び方と先生の働き方の生まれ変わり」と捉えていただきたいと思います。

コロナ禍の3年間で、「教室」の景色が変わりました。この現状に留まることなく、本当の意味での、「学びの景色」を変えなくてはなりません。子ども一人一人が、自分なりに世の中をより良い方向に変えていこうと思えば成長していくには、学校長が明確な教育ビジョンをもち、教職員と共有し、真に「学びの景色」を変えていく必要があります。



### 4. 「教育DX推進課」の設置について

教育 DX とは、子どもたちの学び方と先生の働き方が大きく生まれ変わるということです。そのため教育委員会としても教育の情報化は、教育計画全体の中に位置付け、教育委員会がそのビジョンを策定し、推進していかなければならないと考えています。

今年度から教育委員会事務局に教育の情報化の推進を担い、教職員の意識改革を図りながら、運用面での指導やトラブルに対応できるよう、「教育 DX 推進課」を設置し、学校教育課内の「ICT 推進係」と「情報システム係」の業務を移設しました。「教育 DX 推進課」は、先進的な教育プログラムを推進するための教材の研究、学習効果の評価や計画検討に役立つデータ利用施策の推進、先生方の負担軽減に寄与する校務デジタル化等の業務を行っていきます。また、教育、技術、行政のいずれの分野についても、連携し教育の情報化を進めていけるよう専門的な知識を有する「奈良市 CIO 補佐官」に着任いただきました。数年後、配付したタブレット端末が「置き物」と化すのか、文房具のようになるのか、その分かれ道に立っていると思います。



## 5. 学びの支援について

今年度、公設フリースクール「HOP あやめ池」を開設しました。また、中学校2校をモデル校として、「校内フリースクール」の設置を進めていきます。

子どもたちのニーズの多様化に伴い、「子どもは一人一人みんな違う」を大前提に、「誰一人取り残さない」多様な学びの場を提供していかなければなりません。

現在、不登校は、学校に来て「学んでいる」か「いない」かの様態を指しています。今後、学校を学びの場の選択肢のひとつと捉えたとき、「学校に行き学ぶ」か「学校以外で学ぶか」、その概念も変わっていかざるを得ないと思います。誰もが「学びたいときに、学びたいだけ学べる」、そんな環境を目指していきます。

学校長は、学校以外でもこうした学び方を必要としている子どもや保護者に、積極的に情報を提供いただき丁寧な対応をお願いします。

最後に、今年度も既成概念にとらわれることなく「学校の当たり前」を見直しながら、「チーム学校」で運営する、新しい学校の姿を生み出してください。

子供も、教職員も、ともに生き生きと輝く教育を推進し、子どもはもとより、保護者や地域の方々から信頼される新しい学校づくりをお願いします。

教育委員会も、直接学校現場に出向くなど、現状をしっかりと共有しながら学校を支援していきます。